

高校魅力化への道 探究活動に新聞を活かす

新潟県立糸魚川高等学校

1 学校の概要

本校は、明治時代に旧制新潟県立糸魚川中学校としてその歩みをはじめ、近く創立 120 周年を迎えんとする西頸城随一の伝統校であり、多くの有為の人材を世に送り出してきた。今も多くの生徒が、「勤儉力行」（勤勉で無駄遣いせず、力の限り努力して物事に取り組む）の校是の下で、勉強や部活動に全力で取り組んでいる。

また、「地域と協働した探究活動により、郷土愛を育み、社会に貢献する人材を育成する学校」をスクールミッションとし、探究活動を通じてグローバルな視点を養い、学力の向上を目指している。

近年は、地域の急激な人口減少に伴い、平成 31 年度には 15 学級だった学級数が今年度（令和 5 年度）には 9 学級となり、今後の学校のあり方を模索する中、糸魚川市教育委員会との協働プログラムとして「高校魅力化」を掲げ、高校魅力化コーディネータの配置によって、往時の活力を取り戻している。

近年の大学等進学実績としては、東北大学、東京外国語大学、金沢大学、新潟大学、埼玉大学、上越教育大学、新潟県立大学、都留文科大学等の国公立大学をはじめ、早稲田大学、上智大学、青山学院大学、中央大学、明治大学等の私立大学にも卒業生を送り出している。

部活動は、野球、サッカー、バレーボール、バスケットボール、吹奏楽ほか計 12 の部活動が活発に活動し、優秀な成績を収めている。

2 N I E 実践のねらい

上記の通り、当校ではいわゆる「グローバル人材」の育成が具体的なミッションの一つとなっている。われわれは、この「グローバル人材」を「国際社会で通用する能力とグローバルな視野を持ち、地域社会の発展のため、世界と地域をつなげていく人材」と解釈している。

また、地域の人口減、少子化に伴い現在 3 学級募集となっている。そこで昨年度から糸魚川市の「高校魅力化事業」に関連し、「高校魅力化コーディネーター」による学校推薦型等の大学入試対策や総合探究活動の支援、生徒自習室の運営等を実施し、それは他の県立学校では見られぬ充実した内容となっている。

これらの特色を活かしながら、今年度 1 学年の「総合的な探究の時間」の方向性を

「自分を知る」→「世界を知る」→「未来を生きる」と設定し、次のよ

うに授業を実施した。

○令和5年度1学年「総合的な探究の時間」の実施内容
（「☆」はN I E 関係授業）

4/17 オリエンテーション

4/24 自分の価値観洗い出しワーク①+myマップの説明

5/8 自分の価値観洗い出しワーク②

5/15 myマップ作成①

5/22 myマップ作成②

5/29 myマップ作成③

6/5 myマップシェア

6/12 myマップ

6/19 学問かるた

7/10 myマップ2次完成

7/20 亀陵祭 LHR①

☆7/24 事前活動①（振り返り and 大学・企業調べ学習）

☆8/21 事前活動②（大学・企業調べ学習）

- ・なぜ、大学見学、企業訪問に行くのかを理解する。
- ・調べ学習を通して、当日のイメージを膨らませる。

☆8/22 夏季休暇 新潟大学（企業訪問、大学見学）訪問

- ・実際に、大学や、県内大企業を見学し、働く像をイメージする。
- ・糸魚川との差異を考える。
- ・新潟＝凄い→新潟のどこが凄いのかを言語化する。



本間組
栗の木バイパス工事の見学



新潟大学
ライブラリーホール



新潟大学
第一食堂

☆8/28 訪問の振り返り

- ・新聞作成の枠組みを埋め、どういう新聞を作成するかイメージを膨らませる。

☆9/4 新聞作成 1

- ・新聞を作成しながら、企業や大学の理解を深める。

9/7 亀陵祭 LHR②

☆9/11 新聞作成 2

・新聞を作成完成。

亀陵祭を盛り上げろ！～私のクラスがナンバーワン作戦～

9/25 活動③

10/2 活動④ 班活動①

10/16 活動⑤ 班活動②

10/21 亀陵祭当日

10/30 亀陵祭を盛り上げろ！～私のクラスがナンバーワン作戦～振り返り

11/6 1年生の思い出の1ページをみんなで作ろう！

11/13 企画会議①

11/20 企画会議②

12/4 企画会議③

12/11 プレゼン&投票

12/18 企画実施本番

☆12/19 総合探究（N I E 中間）成果発表会

・優秀者発表を通して、来年への意識醸成とする。

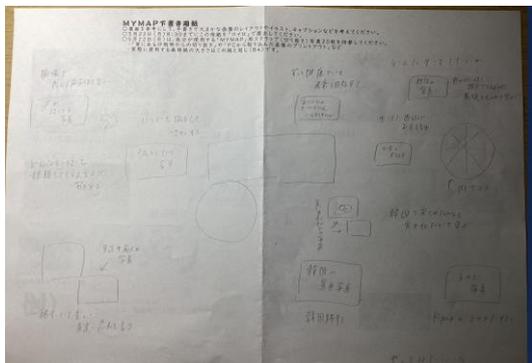
3 本年度実施の概要

(1) my マップ作成

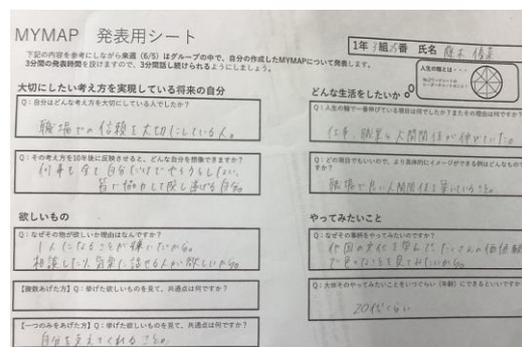
「自分を知り、世界を知る」という本年度「総合的な探究の時間」の方向性に沿って、「自分を知る」ため5～6月にかけて「myマップ」を作成した。趣旨と手順は以下の通り。

① 趣旨

自分は将来どんなことをしたいのか、将来の選択につながる学問は何か、それにつながるために文理選択のどちらが適切か理解する。



「my マップ」の設計図



「my マップ」発表用シート

※4つの価値観と理想に分けて自分の将来を考える「地図」



班に分かれて完成形「my マップ」発表時の様子

※色画用紙に画像やイラストを既存のイラストや画像（一般に認知されている素材）の中から実際に切り貼りしてキャプションを入れる。

②手順

ア 自分が大切にしている価値観を理解し、ありのままの自分を認めることが大切だと理解する。

イ 理想の自分になりきって将来を考えることの楽しさに気づく。

ウ 「my マップ」のシェアで、他人との差異から自分の将来を再認識する。

(2)大学・企業見学

「my マップ」をもとに、「世界を知る」ためのきっかけ作りとして、本年度からの新規の取り組みである「大学・企業訪問」を企画、実施した。趣旨と手順は以下の通り。

① 趣旨 自己のキャリア形成に関心を持ち、県内主要企業の見学を通じ、職業的視野を広げ、将来の自己実現につなげていく。

② 手順

ア なぜ大学見学、企業訪問に行くのかを理解し、調べ学習を通じて当日のイメージを膨らませる。

イ 訪問する際に気をつけなければならないことを理解させる。

ウ 実際に大学、県内大企業を見学し、自分がそこで学び、働く姿をイメージする。

エ 糸魚川との差異を考え**言語化**する。

(3)新聞作成

以下に詳述。

4 実践例

「my マップ」、「大学見学・企業訪問」の成果を「言語化」するための手段として、新聞の体裁による発表を企画、実施した。デジタル隆盛の昨今ゆえ、あえて手書きの「味」に注目してみた。新聞という媒体を手段として有効に利用し、「言語化」と「共有」を目指す。実施の目標は次の3つで、各1時間ずつを充当したほか、放課後等の時間も活用していた。

- (1)新聞作成の枠組みを決め、どういう新聞を作成するかイメージを膨らませる。
- (2)まちがいのない新聞記事を作成しようとすることで、企業や大学に対する理解をさらに深める。
- (3)各クラスでの発表、および全体発表（NIE中間発表会）をつうじて、「伝えること」の大切さに気づく。



代表(12/19開催の「白馬フォーラム」でも発表)となった新聞 同左



その他、多くの生徒が手描きイラストや画像を交えて大学見学・企業訪問の様子を新聞に再現している。

5 成果

(1) 校内発表会 (12月19日(火) 11:00～ 糸魚川高等学校大体育館)

① 1学年N I E中間発表会を各クラス2名ずつ、計6名の発表者がステージ上でプロジェクター等を利用して発表する形で実施した。

② 来賓として、新潟県N I E推進協議会事務局事務局長津野庄一郎氏を迎え講評を仰いだ。「記事の作成にあたっては、何か一つ最も重要な内容に注力するように」との指導があった。早川校長による講評は、発表生徒への質問の形式で行われた。

③ 代表として発表した生徒の一人は「自分で見たことを新聞に書き落とすことによって、自分も知らなかった自分の一面が分かったような気がする。発表によって自分の新聞が他の生徒に共有されることは緊張もあったが、見学先について興味を持つ生徒が増えてくれたらうれしいと思う。」と感想を述べた。

④ 発表会後に行われた研究協議会では、早川校長、N I E担当職員はじめ、直接に指導した学年担当者や発表に至るまで指導を補助した糸魚川市高校魅力化コーディネーターも出席し、津野氏からの有効、適切な助言を受け、来年度の発表会への意欲を新たにした。



2回の発表機会を通じ、「P D C A」を実践し、自分で課題を発見し、自分の答えを発表するにあたり、新聞という媒体の有用性が再認識された。



12 / 19

N I E 中間発表会

12 / 21

白馬フォーラム

(2) 白馬フォーラム (12月21日(木) 長野県北安曇郡白馬村)

6名のうちのさらに代表者2名は長野県白馬高等学校が主催する「総合的な探究の時間」成果発表会である「白馬フォーラム」でも同様の発表を行い、参加者の絶賛を受けた。

(松田 彰英)